

(様式1)

## 平成30年度 学校経営計画書及び最終評価報告書

金沢市立工業高等学校

校長 小酒 正明

### 1 教育理念

金沢市立工業高等学校は、金沢市及び地域産業の発展に貢献するために、質実剛健にして勤勉進取の気概を備えた有為なる人材を育成する。

### 2 教育目標

- (1) 高い教養とすぐれた技能を
- (2) 責任ある言動と協調の精神を
- (3) 勤労の喜びと健全な心身を

### 3 教育方針

- (1) 「ものづくり」の感性と工業の基礎・基本を身につけた創造性豊かな人材を育成する。
- (2) 部活動、生徒会活動、学校行事への積極的な参加を通じて、豊かな人間性や自主・自立の精神、ルール・マナーを守る人材を育成する。
- (3) 実習や課題研究を通して、働くことの意義や喜びを実感するとともに、社会の動きに関心を持つ人材を育成する。

### 4 今年度の重点目標

- (1) 教育内容や指導方法を工夫し、基礎基本の定着を図るとともに、思考力・判断力・表現力を養う。
- (2) 社会への対応力、及び人間力（規範意識、公共心、リーダーシップ等）の向上を図るとともに、安全や環境に配慮できる心を養う。
- (3) 学校行事、生徒会活動、部活動、地域活動に積極的に参加し、生徒、教職員の愛校心を高める。
- (4) キャリア教育（インターンシップ、資格取得等）を強化し、生徒の適性に応じた進路の実現を図る。
- (5) 国の「学校における働き方改革に関する総合的な方策」や県教育委員会の「教職員の多忙化改善に向けた取組方針」などを踏まえ、取組を進める。

(様式2)

金 沢 市 立 工 業 高 等 学 校

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)及び改善策など
1 教育内容や指導方法を工夫し、基礎基本の定着を図るとともに、論理的思考力や想像力を養う。	① 家庭学習の習慣化と基礎学力の定着を図ることを目的に、課題の活用、家庭学習の時間調査を継続的に実施し、保護者との連携を密にして指導を行う。	【成果指標】 家庭学習時間を毎日1時間以上確保できる生徒の割合を50%以上にする。	家庭学習を毎日1時間以上取り組むことができた。 A. 1時間以上取り組んだ B. 十分とはいえなが取り組むことができた C. 少し取り組むことができた D. 全く取り組めなかった	C・Dの割合が50%以上の場合は方法を再検討する。	A: 16% B: 26% C: 32% D: 26% (授業アンケート)	分析: 各教科からの課題が、適切な量や内容になっているかを再検討。  改善策: 必要性を担任、授業担当者から伝える。各教科または学年を中心に具体的な計画を立てる。各クラスの家庭学習状況を定期的に示し、自覚を促す。
	② 朝自習、放課後・夏季休業中・定期考査前の補習等の充実を図り、学習習慣の定着を目指す。	【満足度指標】 家庭学習を含め、朝自習や授業以外の補習に積極的に取り組むことができた。	朝自習、補習等の学習指導で生徒が取り組むことができた。 A. 十分取り組むことができた B. 十分とはいえなが取り組むことができた C. 少し取り組むことができた D. 全く取り組めなかった	C・Dの割合が50%以上の場合は方法を再検討する。	A: 38.8% B: 38.5% C: 17.6% D: 5.2% (生徒アンケート)	分析 1年生の朝学習が定着している。全く取り組めなかったと答える生徒を0%にできるように、朝学習・朝読書の時間を習慣化できるように取り組む。
	③ 習熟度別授業や少人数授業を展開し、学力の伸長を図る。	【満足度指標】 自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考えることで、問題を解決する力を実感できる。	習熟度別授業は自分の学力に合っていると思う生徒の割合が全体の A. 60%以上であった B. 50%～59%であった C. 40%～49%であった D. 40%未満であった	C・Dの場合は方法を再検討する。	強く思う: 27% 思う: 59% あまり思わない: 11% 全く思わない: 3% (授業アンケート)	分析 習熟度別授業や少人数授業の開講数には限度があるので、一つひとつの授業の質をあげ、生徒の満足度の高い授業を目指す。教科によっては、習熟度別授業クラスの中でも学力差が見られることがあるので、教科ごとにその対応策を考える。
	④ 定期考査の欠点科目保持者をリストアップし、校内LANで教員間の情報の共有化を図る。赤点を複数科目保持する生徒については、担任が生徒面談および保護者に早期に連絡するよう教務部から働きかける。	【努力指標】 成績不良者の成績を生徒自ら及び保護者が自覚又は確認する機会を設け、教務部、学年主任、担任、生徒、保護者による面談を行う。	生徒、保護者に対して成績向上のための啓発活動ができた。 A 生徒に著しい変化が見られ、十分有効だった B 有効だった C 生徒、保護者ともに現状認識が足りない D 担任から生徒、保護者への意思疎通が十分なされなかった	C・Dの割合が70%以上の場合は指導方法を再検討する。	A: 4.8% B: 73.8% C: 21.4% D: 0.0% (教員アンケート)	分析 Aの数値が低い。著しい変化が見られるまで、継続的に面談を行うなど家庭と学校の連携を密にする必要がある。 情報を共有することにより、担任だけの指導にとどまらないよう、また早期対応も必要である。
	⑤ 補習内容を学校全体が把握できるシステムを構築する。	【努力指標】 工業科別に実施する補習について、学校全体が周知、把握できるシステムを構築する。	各科が補習内容や実施時期を学校全体に周知できた。 A 十分周知された B 一応周知された C あまり周知されなかった D 周知されなかった	C・Dの割合が40%以上の場合は指導方法を再検討する。	A: 40.0% B: 47.7% C: 12.3% D: 0.0% (教員アンケート)	分析 工業科の補習だけでなく、全教科の補習状況を知らせる必要がある。 (使用教室、実施時期など)
	⑥ 進路指導年間計画に基づき、各学年に応じた進路指導を展開する。特に学年会とは情報を共有し生徒の進路実現を目指す。	【成果指標】 就職決定率、進学決定率	就職決定率、進学決定率が A 両方とも98%以上 B 一方は98%以上、一方は95%以上98%未満 C 両方とも95%以上98%未満 D 上記以下	C, Dの場合は、取り組み方を再検討する。	就職100% 進学98.8% (2019.2.25時点)	今年度は過去最高の求人社数であった。進路指導部の取り組みの成果でもありと考える。しかし、現状に甘えず今後も、進路指導部として地道な努力を積み重ね、生徒のミスマッチを防ぎ進路決定に繋げていきたい。
	⑦ 金沢市立海みらい図書館との連携・協働を図り、ものづくり教育の発信や図書委員会活動を活性化し、読書活動を推進する。	【成果指数】 図書館利用者、及び本の貸出冊数の増加と蔵書の充実を目指す。	図書館の年間貸し出し冊数、および利用者数がそれぞれ前年度数を上回ることを目指す。 A 上回った B ほぼ同じであった C 少し下回った D かなり下回った	Dの場合は、指導や取り組みの見直しを行う。 B以上を目指す。	C 年間貸し出し冊数は31.0%の減少、利用者数は28.5%の減少であった。	今年度の貸し出し冊数の減少は昨年度、大量の本を借りた数名の3年生(いずれもH29年度多読賞を受賞)が卒業したためである。また、利用者数の減少に関しては利用者数カウント法の変更(一定時間内において出入りを繰り返す生徒の重複カウント法の廃止)がその要因の1つである。達成度判断基準対策として様々な教科の授業での図書館利用が活発になるように購入蔵書を検討し、また図書館環境および企画の工夫を行う。

(様式2)

## 金 沢 市 立 工 業 高 等 学 校

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)及び改善策など
2 生徒の社会・対人関係力(規範意識、公共心、リーダーシップ)の向上を図るとともに、安全や環境に配慮できる心を養う。	① 傘さし運転ゼロ運動により、雨天時にはカッパを着用して自転車通学をさせ、傘さし運転をさせない。	【成果指標】 傘さし運転およびカッパ未着用者を減少させる。	傘さし運転ゼロ運動により違反者が全校で A 一人もいない B 5人未満である C 5人以上である D 15人以上である	C・Dの場合は指導方法を再検討する。	B	毎年、生徒指導部だけでなく有志の先生方にもお願いして傘さし運転ゼロ運動を行っている。本校生は他校に比べても合羽の着用率が高いと思われる。
	② 校内での携帯電話使用をさせない。	【成果指標】 携帯電話使用する生徒を減少させる。	校内での携帯電話使用違反者が、クラス毎の延べ人数(半期) A 5人未満 B 6人～10人未満 C 10人～15人未満 D 15人以上	C・Dの場合はクラス毎に指導する。	B 前期の携帯電話使用による1日特別指導を受けた人数7名	これは先生方に見つかって指導を受けた数であり、潜在的にはもっと多くの使用があると考えられる。先生のいるいないに関係なく規則を守ろうとする意識を持たせないといけない。
	③ 遅刻をさせない指導の徹底を図る。	【成果指標】 一日の遅刻者数を減少させる。	一日平均遅刻者数(年間)が A 1人未満 B 1人～2人未満 C 2人～3人未満 D 3人以上	C・Dの場合は指導方法を再検討する。	B 2学期末現在 1.3人/日	同じ者が何回も遅刻を重ねるケースが多い。そういう生徒がたまたまいると、クラスとしても遅刻が多いクラスになる。その都度厳しく指導することと、保護者の協力も必要である。
	④ 自ら進んで挨拶を行う	【努力指標】 主体的に元気に挨拶する生徒を増やす	主体的に挨拶する生徒が A 80%以上 B 70～79% C 60～69% D 60%未満	70%未満の場合改善を検討する	A 自ら進んで挨拶を しっかりできた: 55.9% だいたいできた: 41.2% あまりできなかった: 2.9% ほとんどできなかった: 0.0% (生徒アンケート)	本校の生徒は挨拶はできる方だと思われる。しかし、まだまだ声が小さい生徒や、目線が合わない生徒もみられる。生徒会の挨拶運動とも連携を取って指導をしていきたい。
	⑤ いじめの重大事態に早期発見・早期対応に向け気になる情報については速やかに共有し組織的な対応を行う。	【努力指標】 担任や関係職員と情報交換をはかり、未然防止・早期発見に取り組む。	教員は、日常の様子から生徒の発するいじめサインを見逃さないことを意識している。 A. よくはてはまる B. まあまああてはまる C. あまりあてはまらない D. あてはまらない	C・Dの割合が30%以上の場合は、取り組み方を再検討する。	A: 44.6% B: 55.4% C: 0.0% D: 0.0% (教員アンケート)	いじめアンケートによると、いじめと受け止める生徒が全くなかった訳ではないが、担任を中心として状況を把握して特に大きな問題はなかった。大きくなりそうときには個別に対策チームを作り対処をした。
	⑥ ゴみの持ち帰り・ゴミの少量化・分別の徹底を図る。	【努力指標】 クラスや各部活動が中心となり学校全体で、ゴミ分別や持ち帰りの意識を高める。	生徒がゴミの持ち帰りや分別を行う事ができたか。 A. ゴミの持ち帰りや分別を行うことができた B. だいたい行うことができた C. あまり行わなかった D. ほとんど行わなかった	C・Dの割合が20%以上の場合は、取り組み方を再検討する。	A: 57.0% B: 41.2% C: 1.5% D: 0.3% (生徒アンケート)	良好な結果ではあるが今後も指導を続けていき、分別だけでなくゴミの少量化やリサイクルについても考えさせていきたい。
	⑦ クラスに保健室・教育相談室の紹介をする。1年オリエンテーションで具体的に説明する。	【努力指標】 生徒が充実した学校生活を送ることができる。	保健室、教育相談室は体や心の健康について利用や相談が A できる B 必要である時にできる C あまりできない D できない	A・B合わせて50%未満の場合は、取り組み方を検討する。	A: 22.5% B: 54.6% C: 13.7% D: 9.3% (生徒アンケート)	保健室、教育相談室の利用や相談が「できる」「必要である時にできる」と答えた生徒は合計で77.1%と良好であるが、「できない」と答えた生徒を減らしたい。
	⑧ 実習による事故を起こさない。	【努力指標】 注意喚起、環境改善、KY教育の徹底により、ゼロ災害を目指す。	事故の発生件数が A なし B 1～3件 C 4～6件 D 7件以上	Aでなければ安全教育のあり方を再検討する。	C (スリ傷3件、打撲1件)	実習や補習前の事前指導やヒヤリハットの確認を更に充実させる必要がある。また、酷暑の中での作業は適度に休息をとり集中を切らさないように工夫したい。

(様式2)

金 沢 市 立 工 業 高 等 学 校

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析(成果と課題)及び改善策など
3 学校行事、生徒会活動、部活動、地域活動に積極的に参加し、生徒、教職員の愛校心を高める。	① 運動部、文化部の加入率を高めるとともに、各種大会等での上位入賞を目指す。	【努力指標】 引き続き、高い部活動加入率の維持を図る。	全学年の部活動加入率が A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70～80%未満 D 70%未満	C以下の場合は次年度の改善策を検討する。	A	高い加入率であるが、文化部には掛け持ちの生徒もいると考えられる。また、途中でやめてしまう者も若干名いると思われる。
		【努力指標】 1年生年度当初の部活動加入率の向上を図る。	1年生年度当初の部活動加入率が A 90%以上 B 80%～90%未満 C 70～80%未満 D 70%未満	C以下の場合は次年度の改善策を検討する。	A	高い加入率である。しかしまだ全員というわけではないので、未加入者に対する声かけが必要である。
		【成果指標】 春と夏の全国大会出場の数が増加を図る。	春または夏の全国大会出場の数が増加した A 7部以上 B 4部～6部 C 1部～3部 D 0部	Dの場合は対策を考える必要がある。	A 水球、相撲、バドミントン、 剣道、弓道、新体操、ボウリング	水球のインターハイ優勝など様々な部が頑張ったといえる。
		【満足度指標】 生徒が達成感をもって活動している。	生徒の部活動に対する充実感が A 十分満足している B ほとんど満足している C あまり満足していない D 満足していない	A・Bの割合が70%未満の場合は、再検討する。	A : 46.2% B : 40.3% C : 9.2% D : 4.3% (生徒アンケート)	昨年に比べてAの十分満足している、Bのほとんど満足していると考えている生徒の割合が上昇しており、部活に対する充実感が高まってきている。しかし、1割以上の生徒が依然として充実感が低く、配慮が必要である。
	② 応援練習及び高校相撲金沢大会を学校をあげての行事として設定し、一丸となって応援することで学校の帰属意識や愛校心を醸成させる。	【努力指標】 自ら進んで応援練習に取り組んだ。	応援委員の参加率が A 100%である B 90%である C 80%である D 80%未満である	A・B合わせてが70%未満の場合は、取り組み方を検討する。	B	長い1日だが団長を中心に大変よく頑張っていた。
		【満足度指標】 相撲大会本番と同じ学校に学んでいるという生徒の意識が高まった。	応援に参加して A 大変盛り上がった B 盛り上がった C 盛り上がらなかった D まったく盛り上がらなかった	C・D合わせて30%以上の場合は取り組みを再検討する。	A : 77.8% B : 19.6% C : 2.1% D : 0.5% (生徒アンケート)	生徒が一丸となり、本校への帰属意識や愛校心も高まったと思われる。応援に参加して、金市工としての誇りや連帯感が持てたかという質問に97%が持てたと答えている。
③ 金工祭において、生徒会・クラス・文化部・工業科がそれぞれ主体となって展示、イベントを実施する。	【満足度指標】 自ら進んで金工祭に参加し、取り組む意識が高まった。	金工祭に取り組む意識が A 十分が高まった B 少し高まった C あまり高まらなかった D ほとんど高まらなかった	C・D合わせて30%以上の場合は取り組みを再検討する。	A : 72.1% B : 25.3% C : 2.4% D : 0.2% (生徒アンケート)	クラス企画に97%が協力してやれたと答えており、高い意識を持って参加をしている生徒が多い。またその他の企画でも生徒の主体的な活動が多くみられた。	
④ ボランティア活動を推奨する。	【努力指標】 ボランティアの参加者を増やす。	年間を通してボランティア参加者が A 100人以上 B 80～100人 C 60～80人 D 60人未満	C・Dの場合は、取り組み方を検討する。	A 合計208名 サマーボランティア：18名 24時間テレビチャリティ：10名 金沢マラソンボランティア：180名	今年度よりサマーボランティアへの参加を呼びかけたところ、多くの生徒が参加した。内容を精査したうえで新たなボランティアへの呼びかけも行っていく必要がある。	
⑤ 全校集会で校歌斉唱を実施する。	【努力指標】 自発的に大きな声で校歌斉唱する生徒を増やす。	自発的に校歌斉唱できる生徒が A 80%以上である B 70%～79%である C 60%～69%である D 60%未満である	C・Dの場合は、取り組み方を検討する。	A : 21.5% B : 47.7% C : 26.2% D : 5.0% (生徒アンケート)	相撲大会では校歌をしっかりと歌っていた。全校集会でも、自発的に校歌斉唱ができるように指導していきたい。	
⑥ 高校生ものづくりコンテスト大会(旋盤、電気工事、電子回路組立、木材加工、測量等)及びそれに準じるコンテストにおいて上位入賞を目指す。	【成果指数】 各種コンテスト大会においての上位進出を目指す。	今年度のコンテスト大会において A 全国大会入賞 B 北信越大会(ブロック大会入賞) C 県大会入賞 D 入賞なし	Dの場合は、指導や取り組みの見直しを行う。 B以上を目指す。	A [機械科] 全国ソーラーラジコンカーコンテスト：準優勝 高校生溶接コンテスト：県大会3位 [電気科] ものづくりコンテスト電気工事：北信越大会出場 [建築科] ものづくりコンテスト木材加工：県大会3位 [土木科] ものづくりコンテスト測量：北信越大会5位	来年度も引き続き、全国大会の上位入賞を目指す。	

(様式2)

金 沢 市 立 工 業 高 等 学 校

重点目標	具体的取組	評価の観点	実現状況の達成度判断基準	判定基準	集計結果	分析（成果と課題）及び改善策など	
4	キャリア教育（インターンシップ、資格取得等）を強化し、生徒が望む進路に進めるよう進路意識を高める。	① 就業体験学習、工業人養成企業実習に積極的に参加し、進路選択に役立てる。	【満足度指標】 多くのことも学べるように積極的に活動している。	就業体験学習、工業人養成企業実習に参加し A 進路意識が大いに高まった B 進路意識が少し高まった C 進路意識はかわらなかった D 進路意識を高めるに至らなかった	C, Dの場合は事後指導をしっかりと行い次年度の事前学習について検討する。	A : 85.5% B : 14.5% C : 0.0% D : 0.0% (生徒アンケート)	A、B合計で100%であり、生徒の進路意識が高まった。進路選択・進路実現として、成果ある取り組みとなった。
		② ジュニアマイスターを推奨し、多くの資格取得に挑戦する意識付けの取り組みを推進する。	【成果指標】 資格取得によるジュニアマイスター受賞者の人数を増やす。	3年卒業時のジュニアマイスター受賞者の数が A 80人以上 B 60人以上80人未満 C 40人以上60人未満 D 40人未満	Dの場合は、取り組み方を再検討する。	C … 44人	H28年度:44人 → H29年度:49人 → H30年度:44人と推移している。
		③ 英検・漢検・数検などの資格取得に対する意欲を高め、合格率も上げる。	【努力指標】 資格取得に向け生徒の意識を高め、資格受験者を多くし、さらに合格率を上げる。	資格受験者の年間延べ受験者数を増やし、さらに合格率を上回ることを目指す。 A かなり上回った B 少し上回った C ほぼ同じであった D 下回った	Dの場合は、指導や取り組みの見直しを行う。 B以上を目指す。	C 受験者数 英検：14→37 数検：80→78 漢検：47→30	受験者、合格率の推移はそう変わらなかった。 2級合格者を出したい。